

先生なら、どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていかく」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

AO入試で不合格の生徒。
その後の受験勉強も
振るわない中、
教師の私には見えない
変化と成長を遂げていた

高知県立高知追手前高校
杉山太夏子

すぎやま・たかこ ●同校に赴任して1年目。教頭。
数学科の教師として、生徒は目の前の問題を
どのように捉えているのか、つまずいているとしたら、
それはどこで、どのように考えたからなのかななど、
常に生徒目線での授業づくりに注力してきた。



3 年生のAさんは、高校入学当初から、ある国立大学の学部・学科に興味を持っていて、同学科の公開講座や学科説明会にはすべて参加していました。今から10年ほど前、その学科はAO入試（現・総合型選抜）を行っていました。入試科目は小論文と面接で、評定平均値は出願条件に入っていました。Aさんは1年生の時から成績が振るわなかつたため、一般入試（現・一般選抜）よりもAO入試の方がAさんにとって、現役で合格できる可能性のある選択肢なのではないかと、クラス担任の私は考えていました。ただ、AさんがAO入試に挑戦することには懸念もありました。AO入試の対策が負担になり、一般入試に向けた学習がおろそかになるのではないかと。AO入試で不合格となった場合、Aさんは一般入試に向けて気持ちをうまく切り替えられるのだろうかという懸念です。

悩んだ末、私は5月の面談でAさんに「大学への思いを、AO入試で大学に直接伝えてみては？」と提案しました。AさんはAO入試の受験を決意し、小論文の対策を始めました。しかし、10月に実施されたAO入試の結果は不合格。気落ちしているAさんに私は、「一般入試に向けて頑張ろう」と声をかけました。Aさんは気を取り直し、一般入試の対策を再開したようでしたが、受験勉強の成果は目に見える形では表れてくれませんでした。Aさんは気持ちの切り替えがうまくできていないのかもしれない……。AさんにAO入試の受験を勧めたことに対して私は、後悔の念に駆られ始めました。

ところが12月の三者面談で、Aさんの母親がにこやかに
と 私に言ったのです。「AO入試を受験してよかったです」と。不合格だったのにどうしてだろうといぶかる私に母親は、AO入試での不合格を境に、Aさんは朝早く自分で起きてきて、登校前に勉強するようになったと話してくれました。母親の隣に座るAさんは恥ずかしそうな表情を浮かべていました。

Aさんは、私の見えないところで行動を変えていたのです。その後、Aさんは大学入試センター試験（現・大学入学共通テスト）で目標点を獲得。個別試験で課される小論文の対策を早くから始めていたことも功を奏し、一般入試で合格しました。

Aさんの再起と変化を私が見通せていたかと問われると、答えは「いいえ」です。それぞれの生徒には努力や心の強さなど、教師には見えていないものがたくさんあることを、Aさんは見事な逆転合格を通じて私に教えてくれました。

AO入試で不合格となったAさんに、杉山先生はきめ細かに支援を続けましたが、Aさんの変化には気づかなかつたそうです。生徒を見取る難しさについて杉山先生が語ったウェブオリジナル記事を、ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article32487/>